

世界漫遊特集 vol.8 2016年2月号

フィリピン「マニラ」

文・小田原 章

喧騒の大都市マニラ。現在のマニラとはマニラ首都圏（メトロマニラ）を指し、マニラ市やマカティ市など16の行政区が集まり人口1200万人にも迫る。その最大の観光スポット「イントラムロス」はマニラ市の南岸に位置し、スペイン語で「壁に囲まれた街」という意味であり、16世紀のスペイン統治時代に作られた。今も当時の面影を色濃く残し、緑も多くマニラ市街中心部とは一線を画す落ち着いた雰囲気である。

マニラ観光の主な見どころはイントラムロス横のリサール公園、そして城壁内のサンチャゴ要塞、カーサマニラ、マニラ大聖堂、そして「世界遺産」サン・アグスチン教会である。

最初に訪れたリサール公園では、現在のマニラ市長で元大統領のジョセフ・エストラダ氏が参列して海外からの要人歓迎式典が行われていた。もの凄くラッキーであった！



サンチャゴ要塞は、スペイン統治時代〜アメリカ統治時代〜日本軍占領時代と戦略的に重要な役割を果たし、現在はフィリピン独立運動の英雄ホセ・リサールが監禁されていた場所として記念館が建っている。壁には当時から残された弾痕がいたる所に残されている。



私が最も印象に残っているのはサン・アグスチン教会である。ロマネスク風建築で、フィリピン最古の教会と言われる。天井には見事な装飾画が施されているが、ガイドの説明によると本来は彫刻すべきところ「偽装して」描いたとの事である。



また聖堂の横はミュージアムになっており多くの絵画が飾られている。しかし絵画はそのまま飾られ保存状態はあまり良くなく、最新の設備にする予算がないとの事であった。

私が訪れた時、サン・アグスチン教会で帽子を売りにきた青年が、バスで移動した私を先回りしてサンチャゴ要塞で再び売りにきた商魂には、さすがに脱帽した。